



平成19年3月吉日
(社)日本非破壊検査工業会
機材事業部 RT委員会

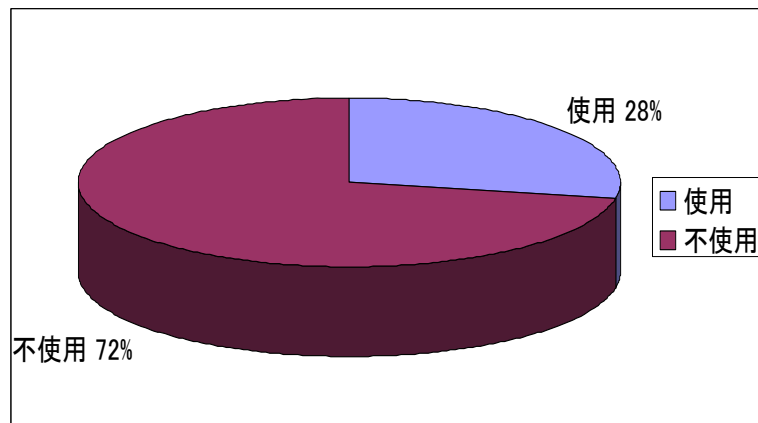
デジタルラジオグラフィー使用実態調査集計結果

昨年、当工業会の枠を越えてデジタルラジオグラフィー(以下「DRT」と言う)をご使用されておられる皆様方のご使用実態やご要求の詳細をより具体的に調査させていただくためアンケートのご協力いただきました。

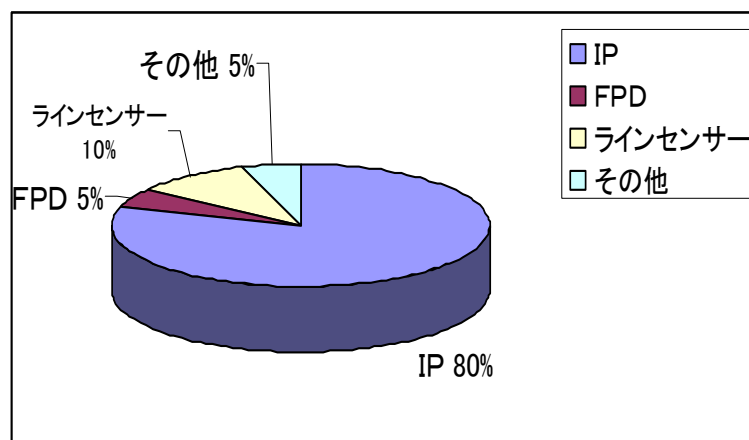
多くの皆様のご協力を得てここに使用実態の集計報告をいたします。

1. アンケート回答数 64件

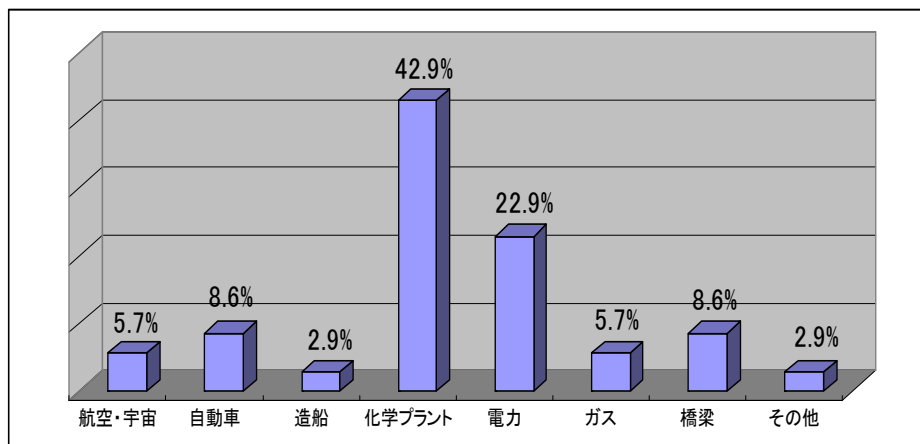
2. 使用の有無



3. 使用システム

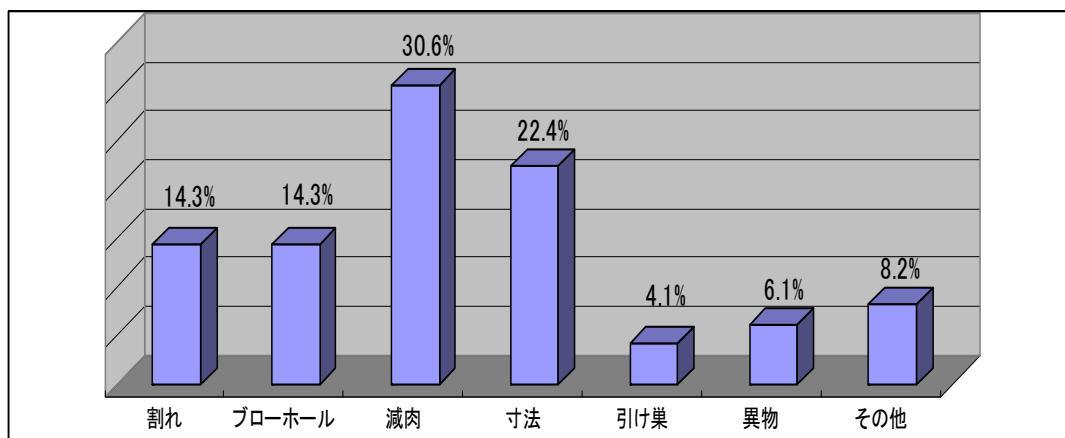


4. 使用分野

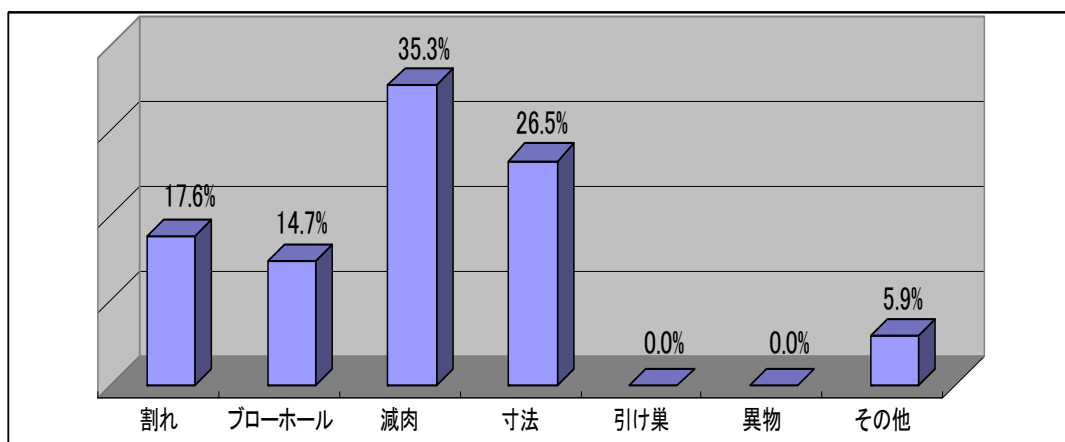


5. 検査対象欠陥の種類

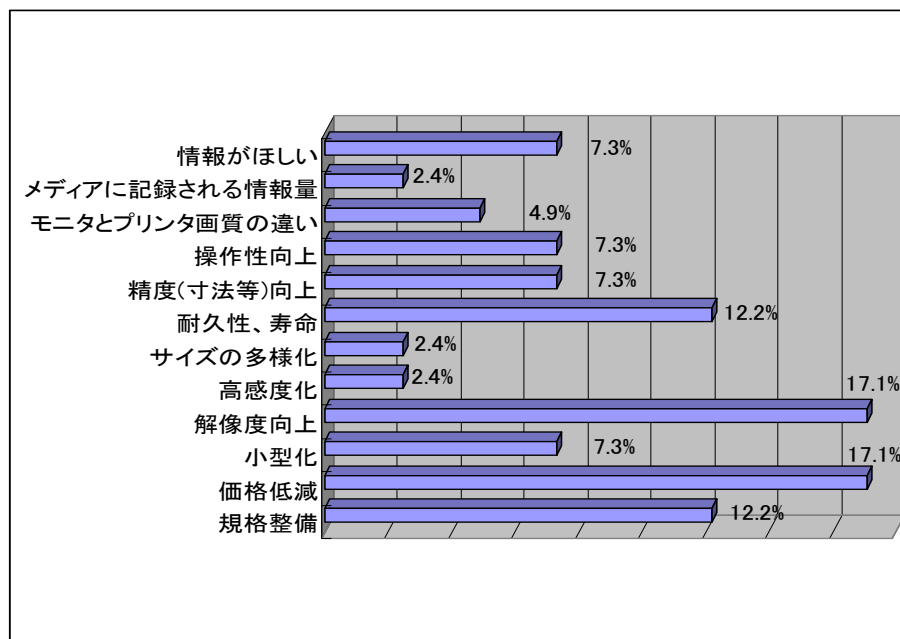
1) 現在の対象欠陥



2) 希望要求レベルが記載された対象欠陥



6. 指摘・要望事項



7. まとめ

- 1) 回答者の1/4程度のお客様がDRTを使用されておられ、その80%がIPシステムを使用されており、70%近くが化学プラントと電力関係のお客様である事が判りました。
- 2) 検査項目としては減肉、寸法測定が多く、溶接部検査で要求されます割れ、ブローホールがそれに続いております。この結果から電力設備や化学プラントの減肉関連の検査が主であるが、溶接検査への期待がでてきているものと推測されます。
- 3) DRTに対する要望事項につきましては、様々なご要望が出ましたが、
 - ① 記録メディアに保存される情報量に関するものや実際に使用してみて予想とは異なり得られる画質がディスプレイとプリンタで違うとか操作性や寸法精度の向上と言ったご意見もあり、性能や特性について導入前と導入後の認識にズレがあるのではと推測されます。
 - ② その他、耐久性や解像力の向上、サイズの多様化、高感度化に関するご要望もありました。また、機器の小型化、価格低減と言ったご要望もあり、DRT機器供給メーカーでの開発努力と改良を期待されている事が推測されます。
 - ③ また、規格整備のご意見も少なからず出ており、今後の関係機関への要望と期待が大きいものと推測されます。

以上、多くの皆様から貴重なご意見をいただき、且つ現状が明確となってまいりました。日本非破壊検査工業会機材事業部RT委員会としましては、この結果を今後DRT使用推進の為の活動に反映してまいりたいと存じます。

以上